

【美術博物館】山口県周南市花島町10-16 (0834-22-8880) <http://s-bunka.jp/bihaku/>

【郷土美術資料館・尾崎正章記念館】山口県周南市富田永源 (レゾナック永源山公園内) (0834-62-3119) <http://s-bunka.jp/kyoubi/>

— 魂を削る美が欲しい

魯山人の宇宙 6/12(金)-7/26(日)

9:30~17:00(入館は16:30まで) 月曜休館 ※ただし7月20日(月・祝)開館、翌21日(火)休館

観覧料 一般:1,300円(1,100円) 大学生:1,000円(800円)

18歳以下無料

* ()内は前売および20名以上の団体

* 身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳等をご持参の方とその介護の方は無料

* 本展をご鑑賞の際は、常設展も無料でご覧いただけます

自邸ペランダでくつろぐ北大路魯山人 1955(昭和30)年

1959年、76歳でその生涯を閉じましたが、彼の残した美意識と革新性は、現代の日本料理や工芸の中に今も息づいています。

(周南市美術博物館学芸員 今井良枝)

食の持つ味を生かした料理には深い敬意を示しました。星岡茶寮を去ることになります。その後は晩年まで作陶を続け、創作への情熱を失うことはありませんでした。

魯山人には豪快でユニークなエピソードも数多く残っています。たとえば、気に入らない料理が出るとその場で厳しく批評し、ときには料理を作り直させたともいわれています。また、自分の美意識に合わないと感じた器は自ら割ってしまうこともあったと伝えられ、その徹底ぶりがうかがえます。一方で、美味しいと感じたものには惜しみなく称賛を送り、特に食材の持ち味を生かした料理には深い敬意を示しました。

さらに彼は料理の世界でも活躍し、東京に会員制料亭「星岡茶寮」を開きます。ここで魯山人は、料理・器・空間を一体とした「食の芸術」を追求しました。自ら創作した器に料理を盛り付けるといふ発想は当時としては非常に斬新で、多くの文化人や財界人を魅了しました。

上京後は書家として成功を収める一方で、美術品や骨董への関心を深め、審美眼を養っていきました。その後、自ら美を生み出すことに魅了され、陶芸の道へと進みます。備前焼や織部焼などの伝統を踏まえつつも、既成概念にとらわれない大胆な作風で、多くの作品を展開しました。

北大路魯山人(1883-1959)は、日本の食文化と美術に革新をもたらした多才な芸術家です。京都に生まれ、本名は房次郎といます。出生には複雑な事情があり、幼い頃に何度も養子に出されるなど厳しい環境の中で育ちました。尋常小学校に上がると待遇を少しでもよくするために、自ら進んで食事当番を引き受けました。そうした中で彼は食材には多くの持ち味があること、そして旬の食材のもつ素晴らしい実感を味わったのです。食にこだわれば心も豊かになる—それは苛烈な幼少期の先に見た一筋の光でもありました。また彼は若い頃から書の才能を発揮し、独学で篆刻や書道を学び、やがてその腕前で身を立っていきます。

魯山人には豪快でユニークなエピソードも数多く残っています。たとえば、気に入らない料理が出るとその場で厳しく批評し、ときには料理を作り直させたともいわれています。また、自分の美意識に合わないと感じた器は自ら割ってしまうこともあったと伝えられ、その徹底ぶりがうかがえます。一方で、美味しいと感じたものには惜しみなく称賛を送り、特に食材の持ち味を生かした料理には深い敬意を示しました。

上京後は書家として成功を収める一方で、美術品や骨董への関心を深め、審美眼を養っていきました。その後、自ら美を生み出すことに魅了され、陶芸の道へと進みます。備前焼や織部焼などの伝統を踏まえつつも、既成概念にとらわれない大胆な作風で、多くの作品を展開しました。

魯山人には豪快でユニークなエピソードも数多く残っています。たとえば、気に入らない料理が出るとその場で厳しく批評し、ときには料理を作り直させたともいわれています。また、自分の美意識に合わないと感じた器は自ら割ってしまうこともあったと伝えられ、その徹底ぶりがうかがえます。一方で、美味しいと感じたものには惜しみなく称賛を送り、特に食材の持ち味を生かした料理には深い敬意を示しました。

魯山人には豪快でユニークなエピソードも数多く残っています。たとえば、気に入らない料理が出るとその場で厳しく批評し、ときには料理を作り直させたともいわれています。また、自分の美意識に合わないと感じた器は自ら割ってしまうこともあったと伝えられ、その徹底ぶりがうかがえます。一方で、美味しいと感じたものには惜しみなく称賛を送り、特に食材の持ち味を生かした料理には深い敬意を示しました。

魯山人には豪快でユニークなエピソードも数多く残っています。たとえば、気に入らない料理が出るとその場で厳しく批評し、ときには料理を作り直させたともいわれています。また、自分の美意識に合わないと感じた器は自ら割ってしまうこともあったと伝えられ、その徹底ぶりがうかがえます。一方で、美味しいと感じたものには惜しみなく称賛を送り、特に食材の持ち味を生かした料理には深い敬意を示しました。



「染付詩文電気スタンド」笠間日動美術館



「九谷風録」笠間日動美術館

(カワシマ・コレクション)



「織部土瓶」笠間日動美術館(カワシマ・コレクション)

←イベント情報は次ページ参照

NHKドラマ「魯山人のかまど」でも使用された作品 約20点を展示予定です。

美術博物館ホームページはこちら



第34回林忠彦賞受賞記念写真展 開催中!

「XEPCOH ヘルソン—ミサイルの降る夜に」佐々木 康こう

会場／周南市美術博物館
会期／5月10日(日)まで※5月7日(木)休館

観覧
無料

林忠彦賞について紹介!
びびびの美「林忠彦賞について」
2026年3月後半号



*会期中は林忠彦記念室を含む常設展も
無料でご覧いただけます

～レゾナック永源山公園の中にある美術館～
郷土美術資料館ワークルームで
歴代受賞作品を展示中!(5月17日(日)まで)

おでかけの際は、ぜひご覧ください

林忠彦賞 歴代受賞作品紹介パネルを展示中



郷土美術資料館

歴代の受賞作品を紹介しています。時代を捉えた作品とともに、林忠彦賞のあゆみを見ることができます。



徳山駅 タペストリー & 9面モニター



南北自由通路
(ぞうさんのさんぼみち)



徳山駅前図書館入口
9面モニター

駅を利用するみなさんに写真展開催をお知らせしています。

学芸員による
ギャラリートーク

日時: 7月 5日(日)
7月18日(土)
※いずれも
14:00～

※企画展観覧券を
お求めの上、展示室
にお集まりください

記念講演会 講師 和食料理人 野崎 洋光 氏

タイトル:「魯山人の味」

日時: 6月28日(日) 14:00～1時間程度
会場: 周南市美術博物館 講座室

定員: 50名(先着順)
参加無料 ※ただし観覧券(半券可)が必要です
◆ 電話で美術博物館(0834-22-8880)まで
お申し込みください

の ざき ひろ みつ
日本を代表する和食の名店を手掛け、伝統的かつ調理科学にも基づく独創的なレシピを数多く考案。NHKドラマ「魯山人のかまど」の料理監修。

魂を削る美が欲しい

魯山人の宇宙

美博クイズ〜!(148) もんだい

現在の東京・永田町にあった、北大路魯山人が開いた会員制料亭の名前は?

ヒント 花畠の表紙を見てみよう

LAWSON

ローソンの
フローズンドリンク

ストロベリーフラップ 380円(税込)
チョコレートモカフラップ 395円(税込)
キャラメルフラップ 380円(税込)

LAWSON STATION

ローソン徳山動物園前店 0834-32-8363

※画像はイメージです。

周南市美術博物館
常設展示

- 常設展観覧料：一般200円(160円) 大学生等100円(80円) ()内は20名以上の団体
 ※18歳以下および70歳以上無料 ※林忠彦受賞記念写真展の会期中(5/10まで)は常設展無料
 ※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳等をご持参の方とその介護の方は無料
- 休館日：月曜日 ※ただし、5/4~5/6開館、5/7休館

展示室 3 コレクション展示室

美博のコレクション展~春~ ~5/31(日)まで



宮崎進「森」1999年 ミクストメディア・板

美博の収蔵品から、春を感じる作品を中心に紹介しています。澤野文臣「回天の里」など周南を描いた作品のほか、大庭学儔「花卉図」、宮崎進の「森」など、多彩な作品を通してさまざまな春をお楽しみください。

今年は、山口県出身の日本画家・松林桂月の生誕150年にあたり、桂月の作品を紹介したコーナーもあります。



松林桂月「行尋山水勝景」1954年 紙本墨画淡彩

展示室 4 林忠彦記念室

茶室 I ~6/30(火)まで

「茶室」シリーズは、それまでの建築写真とは異なる林独自の撮り方で、ほの暗い茶室に座って目が慣れてきた状態を写真に表現しています。茶室に座って感動した瞬間、スピーディにシャッターを切るため、小型カメラで撮影に挑戦しました。

国宝「如庵」は、織田信長(1534-1582)の弟、織田有楽(1547-1621)によって、1618(元和4)年頃、京都・建仁寺内に建てられました。幾度か移築され、現在は愛知県犬山市にあります。有楽窓を始めとする様々な意匠の窓、斜めに配置された壁など、武将であり茶人としても高名であった有楽好みの独創的で斬新な造りとなっています。



「有楽苑 如庵 有楽窓」
撮影 林忠彦

展示室 5 まど・みちおコーナー

今回の内容の展示は
6/30(火)までです。

20代のまど・みちおが、台湾から参加していた同人誌「昆虫列車」。雑誌のタイトルにちなんで、同人たちをそれぞれ虫にたとえた記事があります。

「昆虫列車」の中心であった水上不二はカブトムシ、眞田亀久代はアリ、米山愛紫はセミ。まどさんは一体何にたとえられているのでしょうか。

ヒントは次の文章です。「三角の顔をし、鋭いメスを振りあげた颯爽たる紳虫(士)である。」
今回は、この「同人昆虫見立」のページを開いています。



徳山の歴史 特設コーナー

児玉源太郎と西南戦争
6/28(日)まで

今年は、児玉源太郎の没後120年にあたります。特設コーナーでは、児玉源太郎にまつわる錦絵などを展示しています。



周南市美術博物館 その他の5月の展覧会 9:30~17:00(入館は16:30まで)

観覧無料

- アトリエ陽だまり・グループ万葉会 水彩画展 5/16(土)~5/17(日)【展示室1・2】
- 第5回山口一水会展 5/22(金)~5/24(日) (10:00~、最終日は16:00終了)【展示室1・2】
- 第18回書苑展 5/30(土)~5/31(日) (5/30は13:00~、最終日は16:00終了)【展示室1】

美博クイズ~!〈148〉 こたえ

星岡茶寮だよ

ここは、かつて星がきれいに見える場所
だったんだ。跡地には今、ホテルがあるよ。

Sign <屋内外広告看板>

一般美術看板・電照看板・広告塔・ディスプレイ

ヒロナカ工芸

〒745-0845 山口県周南市河東町4-15 TEL (0834) 32-0818 FAX (0834) 21-7484

ART and HISTORY インフォメーション

周南 周南市美術博物館 ☎0834-22-8880

- 第34回林忠彦賞記念写真展
佐々木康「XPEPCOH ヘルソナーミサイルの降る夜に」 ~5/10(日)
- アトリエ陽だまり・グループ万葉会 水彩画展 5/16(土)~5/17(日)
- 第5回山口一水会展 5/22(金)~5/24(日)
- 第18回書苑展 5/30(土)~5/31(日)

周南市郷土美術資料館 ☎0834-62-3119

- 企画展 林忠彦写真展「東海道を撮る」
尾崎正章常設展 季節を感じて「春」 ~5/17(日)

防府 山頭火ふるさと館 ☎0835-28-3107

- 企画展「令和8年度 新収蔵品展」 ~7/20(月・祝)

山口 山口県立美術館 ☎083-925-7788

- スウェーデン絵画 北欧の光、日常のかがやき ~6/21(日)

山口県立山口博物館 ☎083-922-0294

- 企画展 絵図と映像で歩く防長の街道 ~6/7(日)

中原中也記念館 ☎0839-32-6430

- 企画展「コラボレーション展示
「萩の陶工と中原中也 土の詩情」 ~7/26(日)

萩 山口県立萩美術館・浦上記念館 ☎0838-24-2400

- 開館30周年記念
ロードアイランド・スクール・オブ・デザイン美術館所蔵
ロックフェラー・コレクション
花鳥版画展／北斎、広重を中心に ~5/31(日)

萩博物館 ☎0838-25-6447

- テーマ展示「海を拓いた萩の人々」 ~6/21(日)

宇部 ときわ湖水ホールアートギャラリー ☎0836-51-7057

- 野外彫刻リサーチVol.2 セメント彫刻／
After Permanence ~6/28(日)

長門 香月泰男美術館 ☎0837-43-2500

- 香月泰男 ヨーロッパへの旅 ~5/24(日)



下関 下関市立歴史博物館 ☎083-241-1080

- 企画展「壇ノ浦の合戦と阿弥陀寺・赤間宮」 ~7/5(日)

～レゾナック永源山公園の中にある美術館～
周南市郷土美術資料館・尾崎正章記念館

- 9時30分～17時(入館は16時30分まで)
- 観覧料: 一般200円(160円) 学生等100円(80円)
()内は20名以上の団体 ※18歳以下および70歳以上無料
- ※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、
戦傷病者手帳等をご持参の方とその介護の方は無料
- 休館日: 月曜日 ※ただし5/4は開館、5/7は休館
展示準備等のため5/18～6/5休館

アクセスはこちらをご覧ください

企画展 中・小展示室 **5月17日(日)まで開催中**

林忠彦写真展「東海道を撮る」

びびびの美 2026年4月前半号



周南市出身の写真家・林忠彦が晩年、病魔と闘いながら完成させた『東海道』。写真集は亡くなる数ヶ月前に出版されました。助手や多くの写友に支えられて撮影した、林の執念の結晶でもある作品を展示しています。



林忠彦 撮影「平安神宮」1990年

常設展 同時開催 大展示室

尾崎正章常設展 季節を感じて「春」

今回は、「春」をテーマにお届けしています。風にそよぐ菜の花や可憐に咲くけしの花。やわらかな春の光に包まれた作品の数々が、会場にあたたかな彩りを添えます。

展示風景(※右は尾崎正章のアトリエを再現したコーナー)

令和8年度 今後の展覧会スケジュール

第2回企画展 「コレクション展 時をみつめて」	6/6(土)～8/16(日)
尾崎正章常設展 「ふるさと福川を描く」	6/6(土)～8/23(日)
第3回企画展 「進ミツ子作品展(仮称)」	10/3(土)～11/29(日)
尾崎正章常設展 「秋吉台を描く」	10/3(土)～12/6(日)
第4回企画展 「コレクション展(仮称)」	2027年 1/9(土)～2/28(日)
尾崎正章常設展「津軽の海をみつめて」(同時開催)	

最新の情報は、当館ホームページでご確認ください。 <http://s-bunka.jp/kyoubi/>



ミニコラム ガス燈

新緑の美しい季節になりました。近年の温暖化で、五月に入ったばかりというのに夏のよるな日差しが照りつけることもあり、今年も早く初夏であってほしいです。

令和八年度が始まり、早二ヶ月目に入りました。今年度の文化会館のプログラムは、例年に比べてヴァイオリンの企画が多いことに気が付かれていらっしゃるでしょうか？

文化会館内では、いつもクラシック音楽が流れています。ピアノ・ヴァイオリンなどの曲をいつも耳にしています。中でもヴァイオリンの曲は頻りに流れます。集中したいときに無音を好む人も多いのですが、私にはこの音が作業効率を上げてくれるような気がしています。そこでヴァイオリンの音色について調べた所、リラックした状態や瞑想中に多くみられる脳波のアルファ波を導いて、ストレスの軽減や集中力の向上に役立つとされているそうです。職場環境に感謝したいと素直に思いました。

さて、文化会館の催しですが、5月30日に佐渡裕指揮、新日本フィルハーモニー交響楽団にヴァイオリン・ニストの三浦文彰を迎えて、ブラームスのヴァイオリン協奏曲と交響曲第一番を演奏します。6月16日には、日本を代表するヴァイオリニスト前橋汀子のリサイタル、9月26日に高嶋ちさ子と12人のヴァイオリニスト、と演奏形態が全く違うヴァイオリンの公演を聴くことができます。それに先駆けて、5月9日には「ヴァイオリンのひみごと」題してクラシック鑑賞入門講座を開催します。初めてクラシックを鑑賞される方から知識を深めたい方まで、お気軽にご参加ください。ひみつを知る事ができる貴重な機会になることと思います。(石川)